

人権なら

2018年3月1日

第87号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

7回目の「3・11」を迎えて

被害者の切り捨ては絶対に許されない

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故は2011年3月11日に起きた。まもなく7回目の「3・11」を迎える。巨大地震は東日本を大きく揺すり、巨大津波が太平洋岸を襲った。死者・不明者は2万人に達した。津波は福島原子力発電所も破壊した＝写真。史上最悪の事態であったにもかかわらず、人々の記憶は薄らぎつつある。報道も少なくなった。風化が急速に進む。あれから何が変わったのか。改めて考えたい。

放射能や汚染水が今も漏れ続ける原発事故は、本当に酷すぎる。収束の見通しは立っていない。事故現場は約7000人の作業員が被曝しながら支え続けている。子どもの甲状腺ガンが190人を超えたという。

政府や福島県は昨年3月末、「自主避難者」に対する住宅提供を冷酷にも打ち切った。未だに5万人を超える被災者が避難生活を余儀なくされているのに、だ。避難指示は次々と解除され、「帰還」が強要されている。恒久的な被害者対策が必要にもかかわらず、政府は被災地を切り捨て、被害者への補償・賠償を値切り、打ち切り、被害者の人権を著しく侵害している。

政府・電力会社は原発の再稼働を止めよ！

東京電力は被害者の支援をなおざりにして、柏崎刈羽原発の再稼働に動き出している。大事故の責任をまったく取ろうともしない。原発の安全神話は完全に崩壊した。大多数の人々が再稼働に反対している。

だが、政府をはじめ、「原子力ムラ」の面々は福島原発事故を軽視し、原子力推進政策を推し進める。これまで川内原発、伊方原発、高浜原発を再稼働してきた。関西電力は大飯原発を、九州電力は玄海原発

を近々、再稼働させる構えだ。電力会社は少なくとも26基の原発を動かそうとしているのだという。

一方、外国では、原発離れが進む。チリ、インドネシア、ベトナム、シンガポール、台湾、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、米国などがそ



うだ。日本は世界の動きに逆行しているのだ。原発が動かなくても電力は足りている。危険な原発を使用する必要性はまったくない。

政府は核兵器禁止条約にも不参加。原発を減らす気がない。日立製作所の英国での原発建設には3兆円もの債務を保証するという。日立は福島第一原発4号機の建設を引き受けたメーカーだ。原発輸出など、倫理的に許されるものではない。その日立の会長は次期経団連会長に就任する。とても不可解だ。

原発ゼロの実現に向け、声を上げ続けよう

原発推進派の面々は人の命よりも自分たちの利権漁りに熱心だ。原発事故で多くの人たちが故郷を追われ、仕事を奪われ、家族・地域共同体を分断・破壊され、苦しみもがいていることなど、一顧だにしない。

高レベル放射性廃棄物(核のごみ)や48トンもの猛毒プルトニウム、使用済み核燃料の保管、処分場はどこにもない。放射能が危険レベル以下になるまでには、何10万年もかかる。途方もない歳月だ。未来の世代に大きなツケが回る。だが、原発推進派は将来のことなど、お構いなし。今だけ、金だけ、自分だけなのだ。

私たちはフクシマを忘れず、人類の手に負えない装置の廃絶、原発ゼロに向け、声を上げ続けたい。

地域課題を解決する仕組み

「地域貢献推進フォーラム」で方向性を探る

県社会福祉法人共同事業運営理事会が主催する「地域貢献推進フォーラム」が2月6日、県文化会館であった＝写真。



法人は県内の社会福祉法人が連携・協同して深刻化、多様化する福祉課題などを解決していくことを目的に2016年6月に発足。これまで88法人が参画。3つのリーディング事業を基盤にしなが、制度の狭間にある課題などの解決に向け、取り組んでいる。

フォーラムの第2分科会で「食を通じた居場所づくりを考える―地域食堂×こども食堂」が設定された。当法人も昨年8月結成の「子ども食堂ネットワーク」にサポーター登録している関係で参加した。

辻村泰範・会長が「地域貢献事業くまほろば幸いネット」が全県的に発展するよう努めたい」とあいさつ。荒井正吾・県知事が「福祉分野での奈良モデルをめざして協力する」と表明した。

基調講演は日下直和・香川県社協事務局次長が「地域の課題を解決する仕組みづくりの経過と必要性」と題して問題提起。続いて、「社会福祉共同事業が目指すべき今後の方向性を探る」をテーマにパネルディスカッション。リーディング事業の取り組み成果と課題を踏まえて報告・議論し合った。

このあと、4分科会に分かれて議論。第2分科会では、「食を通じたあたたかな居場所」をめざす「地域食堂」と「こども食堂」とが実践交流を図り、相互の活動のヒントや今後のコラボレーションの可能性を探った。

フォーラムに参加し、福祉法人や社協関係者が地域で生きづらい思いをしている人々への必要な支援事業を始めていることや、時代に合わせて役割が変化していることを学んだ。今後に期待が持てた。

支援の意味を問いかける

劇団「かいほう塾」が劇「手紙」を上演

奈良教職員組合女性部と同青年部が共催した「ウインターフェスティバル」が1月21日、三宅町文化ホールであった。三宅町地域劇団「かいほう塾」が劇「手紙～輝くひとみを未来につなぐ 国境の街ポイペトより～」を演じ、好評を博した＝写真。

「かいほう塾」は三宅小学校の教職員が1998年に人権をテーマにした劇を上演したのがきっかけで旗揚



げ。以来、生き生き交流祭を中心に活動してきた。団員は、脚本を手掛ける古川千賀子さんをはじめ、教職員、卒業生、町職員、学童保育サポーター、ひまわりの家職員やメンバー、地域の人たちだ。

会場全体に共感と感動が広がった

劇団はこれまで数々の上演活動に取り組んできた。部落問題をテーマにした「菜の花」、3・1独立運動を戦った16歳の少女、柳寛順(ユガンスン)の生涯を描いた「空と風と星」、沖縄米軍基地問題を一人の青年の姿から考える「ひさぼうの海」、大和高田市の市場にある食堂を舞台に描いた「山辺食堂の人々」などだ。

劇「手紙」は10年前に初上演し、今年度の三宅町交流祭でも再演している。物語は、カンボジアのタイ国境にある街ポイペト。この地でカンボジアの人々と暮らし、カンボジアの子どもたちに教育を、と支援活動を続ける一人の日本人がいた。彼の思いに共感し、カンボジアに自らの生きる道を見つけた若き青年と、その家族、カンボジアを通し繋がった人々の思いを描く。

ラストのスライドや、ナレーションから、熱い思いを持って語られる支援の意味、共に生きることの喜びが伝わってきた。会場に共感と感動が広がった。

障害者虐待事件で交渉

ピープルファーストジャパンが施設・宇都宮市と

ピープルファーストジャパンは2月6日、宇都宮市にある知的障害者施設「ビ・ブライツ」で起きた虐待事件に対して抗議行動。全国からななま22人が集まった。

「ビ・ブライツ」に入所していた28歳の男性が昨年4月、男女2人の職員にモ

ップで殴られたり、蹴られたりして、腰



椎の骨折と脾臓からの出血で腹腔内に1リットルを超える血液がたまり、一時危篤状態となった。

2人は傷害罪で起訴。施設を運営する社会福祉法人瑞宝会の理事長ら3人は障害者総合支援法違反(虚偽報告)の疑いで書類送検された。

しかし、事件の内部調査をしていた県警OBの施設職員3人が、暴行を目撃した職員らの証言記録などをシュレッダーで廃棄。5台設置している防犯カメラの映像からは暴行のあった期間のデータを消去していた。

当日の午前、瑞宝会事務長と交渉。「どうしてこんなひどいことが起きたのか」「誰が虐待の証拠を隠せと指示したのか」「理事長は今すぐ、責任をとって辞めろ」と、怒りをぶつけた。

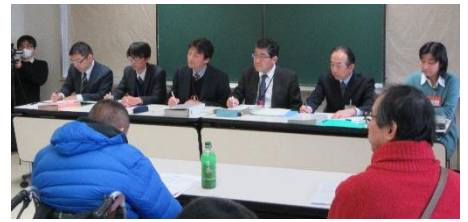
事務長は「触法の人たちを受け入れてきて大変。職員も年間30数人が辞めてしまう。労災も20件。利用者に暴力を振るわれる」と主張。「だからといって、暴力で押さえつけることが日常茶飯事になっていることは正当化できない。暴力が起きる体質を生んできたのではないのか」と追及すると、「暴力を正当化しているわけではない。利用者の人数も減らして、手厚い支援をしていくようにしている。第三者評価委員に調査と改革をお願いする。理事長は昨日、辞任すると言ったので、手続きを進める」と話した。

最後に、報告書が出たら、もう一度交渉に来る。今回は現場を見学させてほしい、と伝えた。

午後は、宇都宮市と交渉＝写真。「事件はなぜ起きたのか」「どうしたらよいか」などを聞いた。

市は「今回の事件では、法人が虐待の事実を認めないので警察

が介入していて、裁判も行われたので、まず事実を確



定することから始めている」「事件後、特別監査をしたが、研修や権利擁護の体制が整っていなかったことと、第三者の目が行き届かない施設で起きたので、地域の人などをボランティアで中に入れることを指導した」「虐待防止センターには、関係者の通報によって調査が行われることが多い。事実か不確かでも、通報してもらえることに力を入れたい」と述べた。

最後に、「被害を受けるのはいつも障害当事者だ。障害を持っていても一人の人間だ」と訴え、終えた。

(ピープルファーストジャパン支援者・吉田裕子)

過疎化進む東吉野で村おこし

滝口俊二さんが「森の月人」立ち上げ、活動

「人権パートナー養成講座」(スキルアップコース)

が1月24日、田原本青垣生涯学習センターであった。

滝口俊二・NPO「森の月人」事務局長が「仲間と楽しむ森のマネージャー」と題して話をした。



滝口さんは東吉野に住む友人から「村おこしを手伝って」と誘われ、大阪から東吉野に2006年に移住。山の上の学校跡地にあった古民家をリフォームし、吉野杉・桧を使ったカフェ(写真)をオープンした。

過疎化が進み、山の手入れができず、荒れた林を目の当たりにし、仲間たちと「森の月人」を立ち上げ、活動している。映像を交えながらの話は、どこか日常を忘れさせてくれるようで、とても心地よかった。

猪飼野をフィールドワーク

ソウル書林店主の李慈勳さんに体験話を聴く

韓国・朝鮮の勉強会「ムジゲ ムジゲ(虹)」が1月28日、「猪飼野(いかいの)」をフィールドワークした。コースはJR鶴橋駅ーソウル書林ー朝鮮市場(チマチョゴリ・民族物産展)ー喫茶タルマジ(作家・翻訳家の高貞子さんがオーナー)ー鶴の橋跡ー御幸森神社ーコリアンタウンー朝鮮学校・御幸森小学校ー懇親会。案内は奈良の小学校教員、松田暢裕さん。

まず、ソウル書林を訪れ、オーナーの李慈勳さん(イジャフン)から、25歳で日本に来た自身の経験や苦悩の話を聴いた。李さんは「朝鮮と日本の近現代史としっかり向き合うことが重要」と語った。



近鉄とJR鶴橋駅の高架下に広がる朝鮮市場を抜け、コリアンタウン近くにある「喫茶タルマジ」へ。あいにく「定休日」で、高さんとは会えなかった。鶴の橋跡(写真)へ。「日本書紀」に登場する「猪甘津(いかいづ)」の

編集後記 ★★★★★★★★★★

政治は誰のためにあるのか。常々、そう考える。沖縄県民の多数が反対する辺野古新基地建設を強行する。大多数の人々が危険で、必要ないと考える原発の再稼働を策動する。国民多数が堅持を願っている9条の改憲に向けて突進する。多くの人々が真相を知りたい森友・加計問題は隠し続ける。ほかにも、歴史の改ざん、教育への介入、働かせ方改悪など、民意を無視し、世論に逆らった悪政が続く。偽ニュースを振りまき、米国第一主義を唱えるトランプ米大統領と「100%共にある」と主張する首相。「富国強兵」社会をめざし、アクセルを吹かす。ブレーキを掛けないと、やばい。

橋」跡だ。地名「つるはし」の語源と言われる。

御幸森神社はコリアンタウン西側入口にあり、疎開道路に面する。古代、歴代天皇がこの周辺に住む渡来人(百済・新羅など朝鮮半島から渡ってきた人々)を訪れる際、この地で休息したことが名の由来と言われる。コリアンタウンは東西350m程の場所に300を超える店がひしめく。この日も多くの観光客で賑わいを見せていた。



「民族学校」を守る在日の人々の闘いの話も

東へ行くと平野川(旧百済川)にあたる。大阪朝鮮第四初級学校に隣接して、御幸森小学校がある。ここで、戦後の「民族学校」を守る在日の人々の闘いについて話を聞いた。懇親会は韓国料理の店「福一」へ。

猪飼野は現在の桃谷と鶴橋の一部地域の地名。戦前、日本の植民地統治により、土地や家を奪われた朝鮮人が職を求めてやってきた。日本政府は国内の労働者が不足すると、朝鮮からの移民を奨励。不景気になると渡航を制限するという方法で労働力を確保してきた。このことは沖縄にもあてはまる。

大阪には現在、20万人を超える在日朝鮮人が住む。猪飼野は最大の集住地域。猪飼野居住日本人の反発で1973年に西成区釜ヶ崎と共に行政区地域名からは削除されている。

「ムジゲ」は2年ほど前に始まった月一度の勉強会。韓国・朝鮮の歴史(近現代史)やハングル、チャングを学んだりする、気ままな肩の凝らない会だ。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/